

2011 年度「人類生態学」 追レポート課題

締め切り：2011 年 11 月 18 日（金曜） 17：00

提出先：添付ファイルで梅崎宛に提出すること (umezaki@humeco.m.u-tokyo.ac.jp)。

受信後 48 時間以内に受け取り確認のメールが届かない場合は、確認すること。

レポート課題：

■問題 1. 以下の項目を、それぞれ 150 文字以内で定義しなさい（求めているのは 定義であって、説明 ではないので注意）。

* 持続可能性

* IPCC

* 生態系サービス

* I = PAT

* エコロジカル・フットプリント

■問題 2. いわゆる新興（あるいは再興）感染症を 1 つ挙げ、それが興ってきた具体的な経緯を、人間活動と関係づけて説明しなさい（A4 で 1 枚程度）。人間活動との関係が明確に証明されたものでも、結局、されなかったものでも良い。必ず複数の文献・資料にあたり、出典を明示すること。

■問題 3. 以下は、人間活動によって出現した、自然生態系には存在しなかったものである。それぞれを、自然生態系におけるエネルギーと物質のフローと比較した場合、（1）どのような特徴を持ち、（2）そのことによって環境と（人間の）生活と健康にどのような影響をあたえているかを、A～E までの各要素ごとに数行の文章で述べなさい。

- A. 原子力発電
- B. 化石燃料
- C. 合成化学物質
- D. 水洗トイレ
- E. 化学肥料

■問題 4. 現代の人間のなかには、高層住宅で現代的な暮らしをするものもいれば、自給自足に近い生活をするものもいる。また、平均余命が 80 年を超える社会もあれば、それが 30 年に満たないような社会もある。ワクチン接種と衛生的な生活環境により、乳児死亡率が 1000 分の 3 以下となった国がある一方で、生まれた子供の 4 人に 1 人が 1 歳までに死亡するような国もある。このように、現代の地球に暮らす人類は、生物学的には同一種であ

りながら、身体的特徴ならびに生活の仕方が多様であり、医学・保健学指標は大きな集団間格差がみられる。人類の誕生から今日に至るまで、このような多様性が形成されてきたプロセスを 2000 字程度で説明しなさい。参考にした文献を明示すること。

■問題 5. 「出生」をコントロールする技術をもつこと、自分の遺伝子を調べて最も効果のある治療法を選択すること、生態系を自分の都合の良いうように改変すること、都市という過密居住集団を形成すること、時速 1000 キロ近いスピードで地球上を移動すること、地理的に離れた場所に生きる仲間と連絡をとりあいコミュニティーを形成すること、いずれも現代を生きる人類にとってはあたりまえの行動である。しかし、それは数百万年の人類史のなかでは、ごく最近になって始まった「特異」な行動である。すなわち、現代社会の問題は、現代人類の「特異」な行動と関連していると考えられる。人類生態学の視点は、現代社会の問題を理解するためにどのように活用されうるだろうか、具体的に考察しなさい。参考にした文献を明示すること。